

# 受けてください、命を守る大切な検診。

市区町村が実施するがん検診は、実際にかかる費用（乳がんの場合で1万円前後）よりも安く受けることができます。対象年齢や自己負担額は、市区町村によって異なります。

## 検診内容

## 対象者

## 自己負担 (検診費)

## 募集期間 (受診期間)

### 大腸がん

自分で便を取って提出するだけの簡単な検査

1. 採便容器をもらう
2. 便を容器に取る
3. 医療機関に提出する

40歳以上  
男女

昭和00年4月1日  
以前に生まれた方

500円  
(1,700円)

令和00年  
0月0日～  
0月0日  
(平成00年  
0月0日～0月0日)

### 肺がん

胸のレントゲンにより肺の病変を診断する検査

1. 喫煙歴の確認
2. 胸のレントゲンの撮影
3. 喀痰(かたん)細胞診(痰(たん)を採取して病変を調べる)  
※喫煙者の方のみ

40歳以上  
男女

昭和00年4月1日  
以前に生まれた方

1,000円  
(5,000円)

令和00年  
0月0日～  
0月0日  
(平成00年  
0月0日～0月0日)

### 胃がん

レントゲンで胃の小さな病変も映し出す検査  
(市区町村によっては胃内視鏡検査も選択できます)

1. 自覚症状などの確認
2. バリウムを飲む
3. 胃のレントゲンの撮影

50歳以上  
男女

昭和00年4月1日  
以前に生まれた方

1,500円  
(11,000円)

令和00年  
0月0日～  
0月0日  
(平成00年  
0月0日～0月0日)

### 乳がん

いわゆるおっぱいのレントゲンマンモグラフィで1cm以下のしこりも発見

1. 医師による問診
2. マンモグラフィ

40歳以上  
女性

昭和00年4月1日  
以前に生まれた方

1,500円  
(12,000円)

令和00年  
0月0日～  
0月0日  
(平成00年  
0月0日～0月0日)

### 子宮頸がん

検査時間は15分程度。痛みはあまりありません。

1. 医師による診察
2. 細胞診  
(子宮の入り口を軽くこすって細胞を取り、異常な細胞がないかを調べる)

20歳以上  
女性

平成00年4月1日  
以前に生まれた方

1,000円  
(8,000円)

令和00年  
0月0日～  
0月0日  
(平成00年  
0月0日～0月0日)

●●市がん検診の、受診方法・申し込み方法については別紙「xxx」をご参照ください

このリーフレットは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。



がんは、早期発見すれば  
90%以上が治ります。<sup>※1</sup>

ぜひ、この機会にお受けください。

あなたが受けるべきがん検診がわかります。<sup>※2</sup>  
該当する年代をご覧ください。

令和xx年度Xx市 xxx部

※1 ここでいう「治る(=治療)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。  
出典：全がん協加盟施設における5年生存率(2009～2011年診断例)

※2 男性は40歳から、女性は20歳から、国によって対策型検診として推奨されているがん検診をご紹介します。

# 男性の方へ

40代



40代男性死亡原因1位が、**がん**になりました。

がんは高齢者だけの病気ではありません。40代はがんが増え始めるため、検診によって早期発見することが大切です。

40代男性の死亡者数ワースト5 (2018年)<sup>※3</sup>

- 1位 **がん** 7,215人
- 2位 **自殺** 3,396人
- 3位 心疾患 2,630人
- 4位 脳血管疾患 2,030人
- 5位 不慮の事故 1,212人

あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 大腸がん
- 2 胃がん
- 3 肺がん

50代

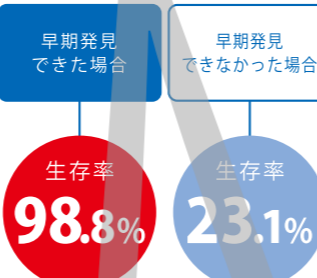


50代はそろそろ“がん年齢”。

でも、定期的な検診受診で、**自覚症状**が出る前にがんは**早期に発見**できます。

大腸がん・胃がん・肺がんは、早期発見によって80%以上が治癒します<sup>※5</sup>。

発見時期による5年生存率 (大腸がんの場合)<sup>※5</sup>



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 大腸がん
- 2 胃がん
- 3 肺がん

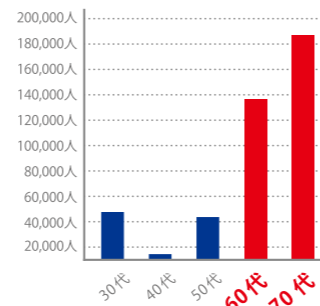
60歳以上



60歳を過ぎると、がんになる人は**激増**。毎年、**約15万人の60代男性が**、がんになっています<sup>※4</sup>。

早期のうちは自覚症状がないため、検診を受けないと見つけれません。だからこそ、検診による早期発見が大切。

年代別がんになる人の数 (男性)<sup>※4</sup>



あなたに必ず受診して欲しい、3つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 胃がん
- 2 大腸がん
- 3 肺がん

## タバコを吸う方へ



たばこを吸う人は吸わない人に比べて、男性でおよそ**4.4倍**(女性の場合は約2.8倍)、肺がんになりやすいことがわかっています<sup>※6</sup>。

自身の身を守るため、喫煙している人は必ず肺がん検診を受診しましょう。

※3 出典：人口動態統計(2018年)  
 ※4 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録、2016年)  
 ※5 ここでいう「治る(=治療)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典：全がん協加盟施設における5年生存率(2009~2011診断例)  
 ※6 Wakai K et al. (Jpn J Clinical Oncol 2006;36:309-324)  
 ※7 国立がん研究センター希望の虹プロジェクトによる推計値

# 女性の方へ

20代~30代

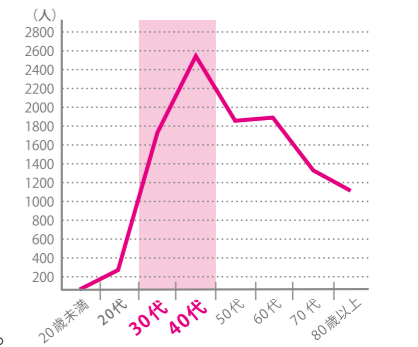


20歳を過ぎたら**2年に一度**、必ず**子宮頸がん検診**を受診してください。

「まだがん検診は関係ない」そう思っていますか？  
 子宮頸がんは、20代後半以降から増えるがんです。ただ、早期のうちに治療すれば、90%以上が治癒し、妊娠・出産にも大きな影響はありません<sup>※4</sup>。  
 でも、早期の段階では自覚症状がないため、検診を受けないと見つけれません。

子宮頸がん検診は、あなたの**命**と**子宮**を守るための検診です。

年代別子宮頸がんになる人の数<sup>※4</sup>

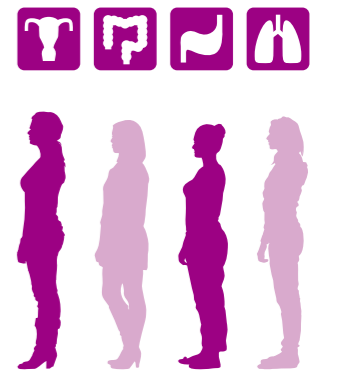


40代



40代女性の約**2人に1人**が、**乳がん検診**を受診しています。でも、乳がんの他にも気をつけなければいけない**がん**があるのをご存知ですか？

子宮頸がん・大腸がん・胃がん・肺がんといった、乳がん以外のがんにも、毎年約8千人の40代の女性がなっています<sup>※4</sup>。



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 乳がん
- 2 大腸がん
- 3 子宮頸がん
- 4 胃がん
- 5 肺がん

50代

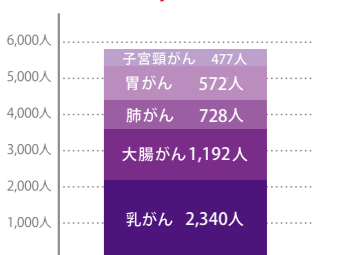


50代は、女性の身体が大きく変わる年代。**がんで死亡する人の数**も大きく**増加**します。

乳がん・大腸がん・胃がん・肺がん・子宮頸がんといったがんは、早期発見で80%以上が治癒します<sup>※5</sup>。しかし、早期のうちは自覚症状がないため、検診を受けないと見つけれません。

左記の5つのがんによる50代女性死亡者数<sup>※3</sup>

計**5,309人**



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 乳がん
- 2 大腸がん
- 3 胃がん
- 4 肺がん
- 5 子宮頸がん

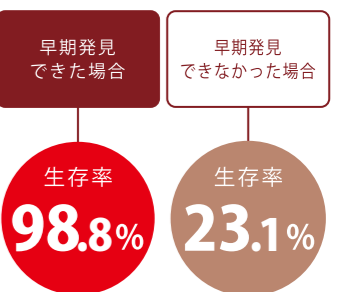
60歳以上



がんになったら治らない、そう思っていますか？  
 がん検診を対象者がみな正しく受けると、毎年日本全国で約**6万7千人の命**が救われます<sup>※7</sup>。  
 (ここでいうがん検診とは、推奨されている以下の5つの検診を指します)

女性がなりやすい5つのがんは、検診による早期発見で80%以上が治癒します<sup>※5</sup>。

発見時期による5年生存率 (大腸がんの場合)<sup>※5</sup>



あなたに必ず受診して欲しい、5つのがん検診(なりやすいがん順)<sup>※4</sup>

- 1 大腸がん
- 2 乳がん
- 3 肺がん
- 4 胃がん
- 5 子宮頸がん